

第4回 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事録

日 時	令和3年8月25日（水）18:00～20:00
場 所	武蔵野市役所西棟1階111会議室
出席者	【委 員】◎松尾哲矢委員、○石黒えみ委員、秋本清委員、櫻井昭委員、鈴木健太郎委員、河合雅彦委員、藤田勝敏委員、鎚邦宏委員、多田てい子委員、前川洋司委員、新野雅史委員、古賀祐輝委員、田中博徳委員、樋爪泰平委員 ※◎委員長、○副委員長 【事務局】武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課 【事業者】株式会社創建（計画策定支援事業者）
欠席者	0名
傍聴者	1名
次 第	1. 開会 2. 議事 （1）武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題 （ICTを活用したスポーツ、体育施設の今後のあり方） （2）武蔵野総合体育館、温水プール・屋外プールのあり方 （3）計画書の構成案及び施策体系案 （4）意見交換
資 料	資料1 武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題 資料2 武蔵野市立体育施設類型別施設整備計画の見直し 資料3 総合体育館大規模改修のコンセプト、改修内容等 資料4 プールのあり方と周辺の状況 資料5 次期計画の構成案 資料6 次期計画の施策体系案

1. 開会

事務局より、開会の挨拶を行った。

2. 議事

(1) 武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題（ICT を活用したスポーツ、体育施設の今後のあり方）
事務局より、資料1に基づいて説明を行った。

■ICT を活用したスポーツ

委員 情報発信の方法が短い期間で変わってきていると思う。以前はパソコンを活用した事業はできなかったが、現在はオンラインで出前講座を開催している。高齢者の多くは市報を見ているが、若い人はホームページや Facebook などを閲覧しており、そのような人たち向けに見やすいページの作成など、情報をどのように発信していくか工夫が必要と考えている。オンライン講座に対して若い人の関心が高まっているように思うので、10年後、情報発信の方法はさらに発展していくだろう。

委員長 情報発信の方法を充実させていく時に、情報格差などに留意する必要があると考えている。課題として捉えるべき点があれば教えていただきたい。

委員 武蔵野市の実態を踏まえると、紙媒体でないと情報を受け取れない人が一定程度いるため、その人たちへのフォローは大切にしていきたい。一方で若い人はインターネットを通じた方法を好んでいるように思う。今は市報を閲覧してくれている人が多いと思うが、ホームページの閲覧も増えているので、年代に応じた取組が重要だろう。

委員 新型コロナウイルス感染症の影響で、同じ時間に YouTube で筋トレをするなど、オンラインの交流や教室などの機会が増えた。今後、ICT を活用して場所を選ばずスポーツに親しむことは重要と考える。

私の身近な人の例をみると、事業団のサッカー教室について保育園のママ友から口コミで情報を受け取っており、そのママ友は市報から情報を得ていた。まだ、情報を取りに行くというよりも、発信されている情報を受け取っているような人が多い印象を受けている。

委員長 海外とのリアルタイムの交流イベントも ICT を活用すればできると考えている。今後、アフターコロナの社会において、ICT の活用という意味では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の状況に戻るのではなく、ICT の活用も併せて推進するのか論点と考えている。

委員 アフターコロナの社会では、従来の対面型と ICT を活用したオンラインでの取組の双方を充実していくと良いのではないかな。

委員 情報発信の方法として紙媒体を無くすわけにはいかないもので、ICT を活用した方法と組み合わせることで情報発信を推進していきたい。武蔵野市では、LINE でお友達登録をしていた際に、興味・関心のある項目を登録する仕組みがある。登録した市民には関連情報が届くようになっており、プッシュ式の情報発信の仕組みとなっている。

委員長 情報発信の視点に加えて、手続きのしやすさの視点も検討する必要がある。公共と民間における情報の一元化も方策として考えられる。この計画策定においては、武蔵野市の特徴を出すことを重視したいと考えている。武蔵野市はとても暮らしやすく、成熟した社会をモデル的に形成できる街なのではないかと考えている。一定程度コンパクトでまとまりのある街だと思うので、情報の収集と発信について新しい取組を展開できるだろう。

- 委員 武蔵野市モデルというようなものを形成できると良いだろう。武蔵野市はスポーツ実施率が高いという特徴があり、なぜ実施率が高いのか、なぜ住みやすいのか、これらの結論を出した上で施策を検討すると武蔵野市モデルができるのではないかと。現時点でスポーツ実施率が高い要因を把握して、その強みを活かして取組を推進していくことが必要ではないかと。ICTについては手続き等も含め、スポーツをするための環境整備として、より一層活用を促していくと良いだろう。e スポーツについては様々な考え方があって検討が必要などところである。
- 委員長 スポーツ施設の情報を公共と民間とで統合させて一元化していくことも考えられると思うが、その施策についてはどのように考えるか。
- 委員 私は一元化するのは良いと考えている。ただし、その時に公共と民間の差別化が問われる。公共は裾野を広げる役割を担えば良いのではないかと。専門性や+αの部分を求める先として民間があれば差別化が図れるのではないかと。
- 委員 武蔵野市モデルは良い言葉である。我々は会員向けには動画配信を行っているが、市民にどのように動画を届けることが適しているのかももう少し検討していくことが必要と捉えている。
- 委員 紙媒体はまだ根強く重視されている。確かに海外では飛躍的にICTの活用は発展しているが、それをチームスポーツに落とし込むことは難しい。個人でできるヨガなどでは活用を推進できると思う。個人的な活動でワクチン関連のデータを取りまとめており、近隣の人口の多い区では予約が取りづらい状況となっている。一方、武蔵野市はそこまで深刻な状況に陥っていない。他の自治体と比べてバランスの良いコンパクトなまちであるため、新たな取り組みもスピーディーに進めやすいのでは。また、高所得層が多く民間を利用しやすいことも特徴的だろう。
- 副委員長 武蔵野市の公式LINEをみると、ホーム画面にスポーツというキーワードが見当たらない。LINEで発信する仕組み自体は素晴らしいので、スポーツ関連情報につなぐ工夫ができるか良いのではないかと。
- 委員長 情報格差が生じないよう、ICTを学びたい人への支援が大切だと思われる。それでは次の議題へ進みたい。

■ 体育施設の今後のあり方

- 委員 スケートボードやスポーツクライミングなどのアーバンスポーツといった新しい競技種目にも目を向けて、武蔵野市として特色を出すことが重要と考える。加えて、ボッチャなどのニュースポーツにも目を向けたい。ニュースポーツは実施できる場がないという課題がある。スポーツを広げていくことが必要と考える。
- 委員長 アーバンスポーツはなかなか楽しめる環境がない。成熟社会として武蔵野市モデルの中でそのような競技種目を楽しめる場をつくるのは有益なのではないかと。子どもたちが使用するスポーツ施設として気になる点はないだろうか。
- 委員 学校外で正式なスポーツを実施する場があることは重要と考える。芝生のグラウンドでサッカーができるように、総合体育館についても、広いコートでのバレーボール、バドミントンなど、大会が開催できるシンボリックな施設になっていただきたい。
- 委員 学校でできないことができる施設は貴重である。アーバンスポーツなどの競技種目はなかなか学校の施設ではできない。芝生や透明なバスケットゴールなども、子どもたちにとって良い経験となる。そのような施設にトップアスリートを呼んで、学校では得られ

ない体験をしてもらう仕組みも良いのではないか。

委員 拠点となる施設を目指すのであれば、様々な年齢層に応じることが大切ではないか。子どもから大人まで多目的に利用できる場になると良い。また、東京 2020 大会を見ても、多数の競技種目があることがわかる。コートはなくともバスケットゴール一つがあれば 3×3 ができるように、様々な競技種目を実施できるようにしていくことが重要だろう。

委員長 「あの場所で取り組みたい」というような気持ちを抱かせる施設のあり方を目指していくと良いと考える。

委員 障害者スポーツセンターだと、多目的トイレはあるが数に限りがある。多目的トイレでなくても車いす使用者の方などが利用できる工夫として、一つはスライド式のドアになっている。シャワーも車いすの方も利用しやすいように工夫しているので、留意していただければ良いと考える。また、バリアフリーというのはバランスが重要である。例えば、視覚障害者への対応として点状ブロックを多く設置しすぎると、車いすの方や杖を利用する方にとっては支障となる場合もある。そのため、施設内にスタッフを多く配置し、それぞれの障害に対応できるようにしている。北区の運動場では、歩き専用の 0 レーンを設けており、片側障害の方などが歩いているケースもある。このような環境を整えると利用者が増えていくように見受けられる。

委員長 スポーツを実施する場に生活の豊かさを求めることも重要な考え方になってくるのではないか。同志社大学では、和室やパウダールームが設置されており、生活の豊かさが垣間見えた。もちろん機能性は重要であるが、豊かに暮らす視点も重要と考える。

委員長 それでは次の議題へ進みたい。

(2) 武蔵野総合体育館、温水プール・屋外プールのあり方

事務局により、資料 2 から資料 4 に基づいて説明を行った。9 月 2 日頃を目安に委員から資料 3 の総合体育館についての意見を募ることとなった。

委員 50m プールは近隣自治体にないため、大会では武蔵野市の屋外プールを使用する。維持費には留意しなければならないが残していただきたい。

副委員長 ファシリティマネジメントは設計の段階がとても重要で、設計の際にステークホルダーの方々の意見を最大限取り込んでいくことが大切である。

委員 屋外プールを 30 年間利用しているが、一般利用において 50m プールで 50m を泳いだことは一度もない。競技大会の時だけ 50m を泳げる環境となっている。

委員 災害拠点について、物資拠点の所管課が先日体育館内外の視察を行った。その所管課の聞き取りも実施すると良いのではないか。

(3) 計画書の構成案及び施策体系案

事務局により、資料 5 から資料 6 に基づいて説明を行った。

副委員長 目標値は設定されるのか。

事務局 現状設定する予定ではなかったが、設定した方が良ければご教示いただきたい。

副委員長 国や他都市の方向性をみると、指標を設定している事例が多くなっている。PDCA やアウトプット、アウトカムの考え方に留意しながら、定量的なものでも良いと思うが、最終的なビジョンを明確にして進捗管理できるように指標を設定していけると良いのではないか。

委員長 定量的な指標及び評価基準とともに定性的な指標及び評価基準を考えていく必要があ

ろう。これは達成状況を測る上でもとても重要なため、ぜひ盛り込んでいただきたいと考える。

以上